

7月13日をお腹の赤ちゃんを大切に 生命尊重の日



すべてのいのちは例外なくお腹の中の胎児期から始まります。

お腹の赤ちゃんも私たちと同じ一人の人間です。

しかし、中絶により年間**18万**、毎日**500人**のお腹の赤ちゃんの命が失われていることをご存知でしょうか？

なぜ7月13日？ 7月13日は昭和23年に優生保護法(現母体保護法)が制定された日です。戦後この法律の下で葬り去られた小さな命は7600万に上ると言われています。また、同じ数だけ産めなかった女性の悲しみもありました。この悲しみを忘れることなく、いのちの尊さを考える日「生命尊重の日」として、お腹の赤ちゃんを温かく迎える街づくりをすすめています。



知っていますか？

●お腹の赤ちゃんも大切な市民です

同志社大学 赤ちゃん学研究センター長 小西行郎先生は、「胎児は一個の完全な生命である。赤ちゃんはお腹の中から自発的に動き自ら人生を切り開いています」と提唱されています。近年、新型出生前診断による障害児の選別が議論を呼んでいます。障害の有無にかかわらず全ての命を「おめでとう」と迎える心豊かな社会を願っています。最も弱い命に優しい社会は、すべての命に優しい社会といえるのではないのでしょうか。



いのちは授かりもの！

●すべてのいのちが大切にされる社会を

日本では、古来より“いのちは授かりもの”として、お腹の中からのいのちが芽生え、生れた時を一歳とする「数え年」の文化が根づいていました。7月13日を「生命尊重の日」として、“いのちは授かりもの”を思い起こし、一人ひとりの赤ちゃんはかけがえのない命であることを確認しあう日としたいと思います。「お腹の中の命を大切にしないと、生まれてからの命も大切にしなくなる」とこれまでも多くの識者が警鐘を鳴らしています。

1円で妊婦さんとお腹の赤ちゃんを応援しよう

エンブリオとは
(embryo)
8週までの胎児



ひと口1円「円ブリオ基金」にご協力下さい。
経済的な問題を抱える妊婦さんをサポートします

【郵便振替】口座番号 00150-9-415477
口座名義 NPO法人円ブリオ基金センター

NPO 円ブリオ基金



皆様の善意の1円で
現在 **741名** の
(令和元年6月現在) **赤ちゃん誕生**

お礼のお手紙

相談の電話をした時、本当に産んでいいのか、家族にも生まれてくる子どもにも負担・迷惑をかけるだけではないかという不安と葛藤がありました。「産まれてくる子どもは希望になります」という言葉がなければ、今この子はここにいなかったと思います。(M)

相談で助かる命があります

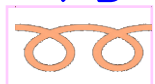


思いがけない妊娠で悩んでいる方、お電話ください

妊娠SOSほっとライン

円ブリオ北海道

7月13日(土)~7月17日(水)



フリーダイヤル

10:00~16:00

はここに

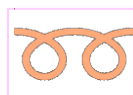
0120-71-8852

後援 北海道・札幌市

期間終了後は下記にてお受けいたします

毎週金曜日 011-702-2622

NPO法人円ブリオ基金センター



フリーダイヤル

0120-70-8852

毎週 火・木 10:00~16:00 メール相談もあります



お腹の赤ちゃんも社会の一員です！